課　　題　　切花用ハボタンの品種比較試験

担 当 者　　浪花　恵

目　　的　　本市で取り組んでいる切花用ハボタンにおいて、赤白とも色戻りすること、赤系品種についてはそれに加え草丈が伸びにくいことが課題となっている。当市のハウス栽培において、色戻りしにくく草丈が伸びる品種を選定するため、比較試験を行う。

供試品種　　白系：晴姿(タキイ)、小町(ムラカミ)、桜神楽(ムラカミ)、春の宴(サカタ)
赤系：初紅(タキイ)、楊貴妃(ムラカミ)、恋姿(タキイ)、春の紅(サカタ)、紅神楽

試験区構成　　1区 晴姿、2区 小町、3区 桜神楽、4区 春の宴
5区 初紅、6区 楊貴妃、7区 恋姿、8区 春の紅、9区 紅神楽

区制及び供試本数　　１区制　1区 40 本

耕種概要　　栽培条件　露地、温室(無加温)
播　　種　7月8日
定　　植　7月19日
採　　花　12月7日
栽植密度　畝幅 150㎝×株間 12㎝　6条植え(植穴2本)　6,600 本/a
施肥量　無施肥

結果及び考察

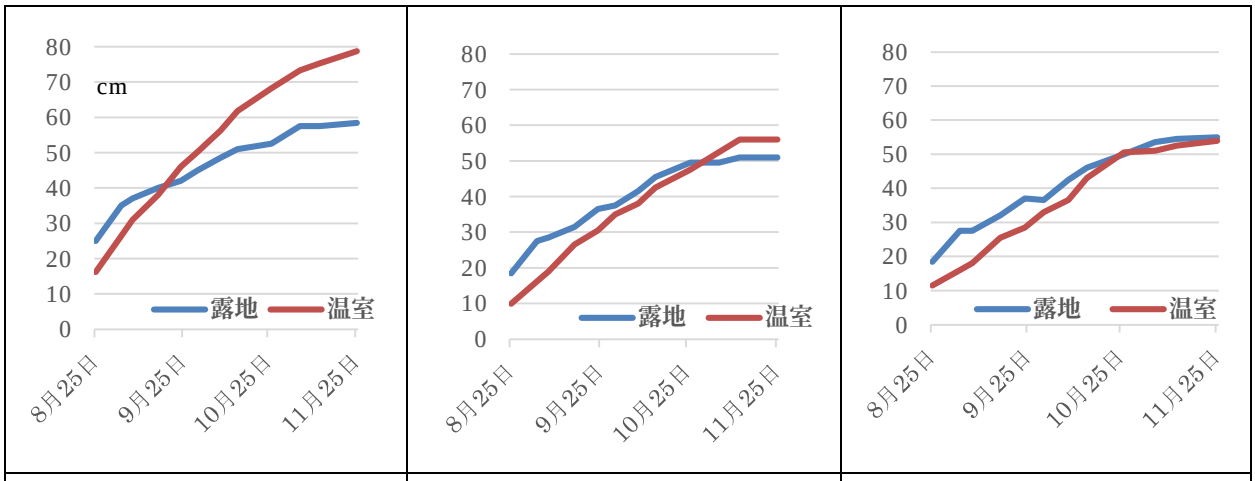
全品種が色付いた後、色戻り（赤や白への発色後に起こる葉の再緑化）を誘導するため、晴れが続いた 11 月 18 日から 11 月 22 日に温室を閉め切って管理した。

1　生育調査の結果を図１に示した。露地栽培は 10 月中下旬頃から草丈の伸長が穏やかになり、温室では栽培後半も生育を続ける傾向があった。

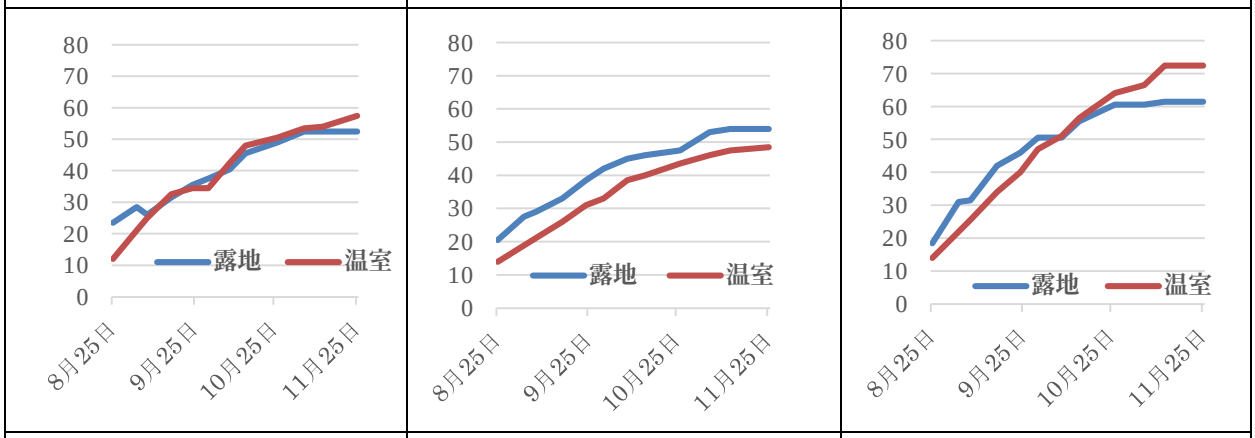
2　発色程度について図 2 に示した。すべての区において、露地に比べ、温室での発色が悪く、色戻りが発生した。白系品種では中心の桃色がほとんど出なくなり、白い葉には色戻りによる緑のまだら模様が見られた。特に晴姿では、緑のまだら模様が目立った。赤系品種では赤に発色していた部分が緑がかった色になり、特に恋姿は緑の部分が多かった。また、楊貴妃は一枚一枚の葉の幅が広くなり、花部分の形が変わった。紅神楽では発色不良と併せて、色付いた葉の枚数が少なくなり、節間も広く花づまりが悪くなった。

3　収穫調査の結果を表１に示した。露地より温室の方が草丈も伸びやすく、花径も大きくなった。白系では小町、赤系では初紅の切花長が短かった。花卉出荷組合の出荷規格では 51 ㎝以上がＬであり、すべての品種において充分な切花長が得られた。

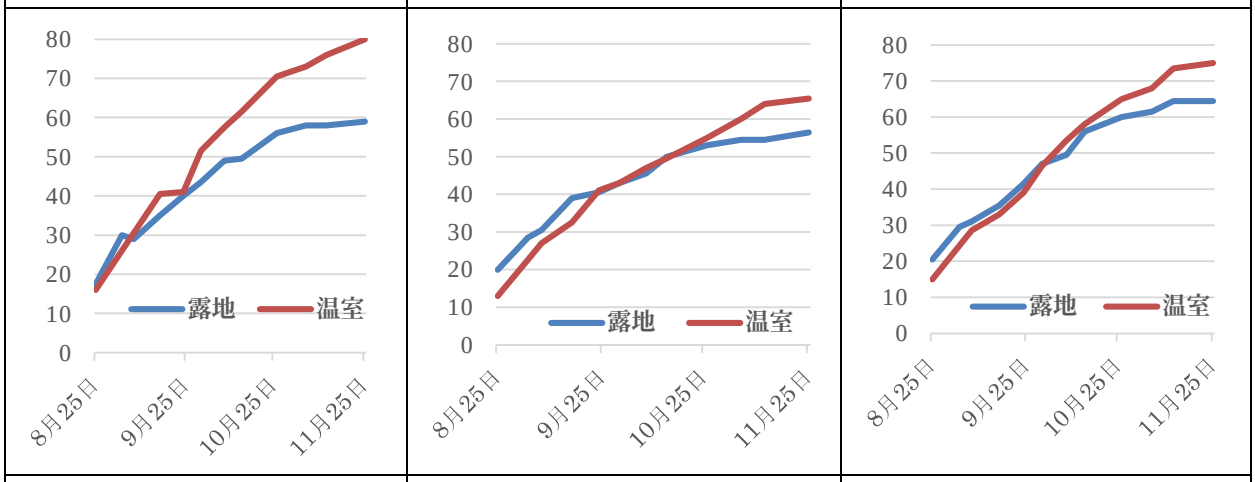
以上の結果から、すべての品種において、最高室温 30℃以上で４日間の管理は発色の悪さにつながり、その影響は品種間差が大きいことが分かった。ハボタンの発色には夜温より昼温の影響が高いと言われており、色戻りにも昼温が影響する可能性が高い。一度色戻りをした場合は、その後寒さにあたっても緑色のまだら模様が残る不完全な発色状態になるため品質が悪くなるが、白系では春の宴、赤系では初紅、楊貴妃が色戻りしにくい傾向がみられた。草丈については、どの品種も Ｌの規格を満たした。これらの結果から、当市の栽培に向いている品種の候補として、白系では春の宴、赤系では初紅、楊貴妃が挙げられる。



1 区　晴姿　　2 区　小町　　3 区　桜神楽



4 区　春の宴　　5 区　初紅　　6 区　楊貴妃



7 区　恋姿　　8 区　春の紅　　9 区　紅神楽

図１　生育調査結果　草丈の変化

1区　晴姿	2区　小町	3区　桜神楽
4区　春の宴	5区　初紅	6区　楊貴妃
7区　恋姿	8区　春の紅	9区　紅神楽

図２　収穫物花部分の色、花づまりの様子　　左：露地、右：温室

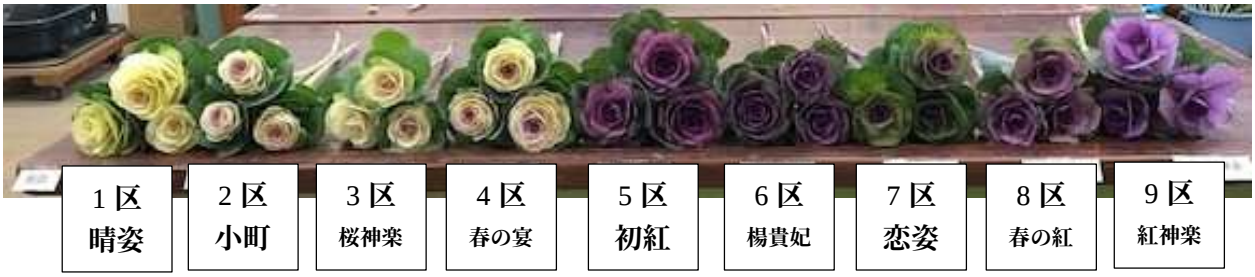


図３　温室における各区の花部分の比較

表１　収穫物調査結果

試験区		草丈(cm)	茎径(cm)	花径(cm)	色戻りの程度
1区　晴姿	露地	67.5	1.25	8.4	◎
	温室	70.0	0.91	9.3	×
2区　小町	露地	55.8	1.19	5.3	◎
	温室	60.2	0.93	10.2	△
3区　桜神楽	露地	60.7	1.26	8.6	◎
	温室	60.7	0.90	9.8	△
4区　春の宴	露地	59.0	1.29	7.1	◎
	温室	60.9	0.91	9.7	○
5区　初紅	露地	53.5	1.20	7.5	◎
	温室	57.0	0.97	11	○
6区　楊貴妃	露地	66.1	1.13	7.9	◎
	温室	80.2	0.83	9.1	○
7区　恋姿	露地	68.2	1.03	6.4	◎
	温室	89.8	1.01	10.9	×
8区　春の紅	露地	61.1	0.99	7.3	◎
	温室	81.2	0.83	9.4	△
9区　紅神楽	露地	65.7	0.99	9.6	◎
	温室	81.3	0.87	11.8	×

＊色戻りの程度

◎：品種本来の色が発色しているもの

○：色戻りがみられるものの鑑賞に堪えうるもの

△：色戻りがみられ、使い方によっては鑑賞できそうなもの

×：色戻りが著しく観賞できないもの